

Interview

感染拡大の防止

つじの 栄作 氏に聞く

医師、東京都議会議員(小金井市選出) / 都民ファーストの会

一人ひとりの行動意識の変革を



【Profile】 辻野 栄作 (つじの・えいさく)
 東京都議会議員(都民ファーストの会所属)。北海道大学医学部医学科卒業後、医療法人社団一陽会陽和病院、医療法人社団慶竹会ほづみクリニック、外務省診療所等勤務し、文京区で「後楽園クリニック」を開業する。その後、小池百合子政経塾の「希望の塾」に入塾し、小金井市選出の東京都議会議員として当選。クリニックは令和二年一月に千代田区に移転し、現在も診療を継続している。医師免許を持ち臨床医でもある唯一の東京都議会議員として、都政と新型コロナウイルス感染症対策に従事する。

【所属等】
 日本精神神経学会、東京精神神経科診療所協会

【資格】
 精神保健指定医、日本精神神経学会認定専門医、日本医師会認定産業医、麻酔科標榜医

※写真は2020年以前に撮影

辻野栄作氏は精神科・麻酔科の医師で、二〇一七年七月、地域政党「都民ファーストの会」から東京都議会(小金井市)へ立候補し、当選。現在、医師免許を持ち、臨床医でもある唯一の都議会議員として活躍する。今回は医師で議員でもある立場から新型コロナウイルス感染症について、「緊急事態宣言」「緊急事態措置」と教育・医療への影響、議員として感じている事、都民にアプローチできること、歯科医師連携に関しての見解を伺ったほか、今後の歯科医療に期待することなどを伺った。

新型コロナウイルス感染拡大の抑制には必要な措置を加速して実施することが大切

「新型コロナウイルス(以下「新型コロナ」)による「緊急事態宣言」「緊急事態措置」の影響について。

「辻野栄作氏」緊急事態宣言「というのは、報道でもあったように、安倍総理大臣が発令して、都道府県知事が「緊急事態措置」として、四月七日から五月六日までの一カ月間、都民の皆様に対し、徹底した外出自粛などを要請するものです。不要不急の例外として、「医療機関へ通院」「食料品の買い出し」「職場への出勤」など、生活の維持に必要なものを掲げ、これらを除き、原則として外出しないこととしています。

「密集」「密接」という「三密」を避けることをスローガンに掲げ、人との間隔を

「新型コロナ」による「緊急事態宣言」「緊急事態措置」の影響について。食品の購入時の行列に並ぶ時、この社会的距離を守ることで、飛沫による感染リスクも減ると思います。緊急事態宣言の趣旨をご理解いただき、感染拡大を抑える。そういった制限を徹底しなければ感染拡大は抑えられません。

今、東京都知事の緊急事態措置によって、事業者に対する経済的な補償が話題になっていますが、東京都が、新型コロナ対策として設けた「制度融資」や、「経営課題に関する専門家派遣」などを活用していただきたいと思います。生命と健康を守ることを最優先第一とし、さらに経済の循環も滞らないよう最大限に

として診療を行ってきました。当院でも今年二月から現在に至るまで、患者さんが減少する傾向がありま

す。私は、今回のウイルス禍は産業界や飲食業などと同様に、医療界にも経営に及ぼす影響が大きいと認識しています。大きな医療法人等、経済的に余力がある医療・歯科診療所ではなく、私のような医師一人の小規模な医療機関では、患者数が減り、適正な医療収入が得られなくなると、経営困難に至ることになります。

さらに、医療現場では医療物資・衛生材料不足が起きています。私の数年間の外科研修医と麻酔科医の臨床経験から察するところ、マスク、ガウン、グローブ、消毒薬などの医療物資や衛生材料が足りない中で、特に歯科も含めた外科系の医療では、従前と同じ質を保

「子ども教育への影響について。」

「辻野氏」子どもが自宅で過ごす時の世話はどうするか。常に意識して取り組んでいます。子どもが登校できず、自宅で授業を受けられるよう、ICTを活用した取り組み等もありますが、教育現場の方から「ネットを使った授業で対応してはいるが、ネットの授業だけでは十分な教育ができない」という声もいただいています。また、親の経済力等によるICT環境の格差、デジタルデバイスによって学力の差が生じるべきではなく、やはり子どもたちには、教育をしつかり受ける権利があるので、私はこのような状況であっても格差ができてしまうことは避けたいと思っています。引き続き、教育関係者や子どもを持つ方々の声に耳を傾け、対策を講じていきたいと思います。

「医療への影響について。」

「辻野氏」私自身、精神科の医師として、文京区と千代田区で十年以上、開業医

「都議会議員(政治家)として感じていること、思っていること、都民にアプローチできること。」

「辻野氏」中国の武漢と欧米のニュースが入ってきて、私は医師として、二月頃からウイルス学や公衆衛生分野の知識と経験から強い危機感を抱きました。当初はただの風邪の一種で、罹患しても重症化しないといった報道もあり、多くの皆様はそれほど深刻には考えていなかったと思います。当時を振り返ると、医師としての知識と経験、感覚で危機感を持ちながら、議員として危機感を訴えていくのに

「これからの歯科医療には都民・国民の健康づくりの連携が重要」

「医療連携について。」

「辻野氏」超高齢化社会を迎えようとする中で、健康やかに過ごすためには歯科のオーラル・フレイル対策が重要です。

高齢の患者さんが増え、さらに認知症の患者さんを診る機会が増えてきています。少子高齢社会を迎える中で、歯科の先生や精神科医、そして他の科も含めて、総合的に国民の健康づくりに協力していき、連携を図る必要があります。認知症や精神疾患の患者さんの中には、自分の身の安全や口腔ケアを保てない方がいらっしゃると思います。その場合は患者さんの口腔ケアも含めて全身の健康を保つ工夫が大切です。さらに、食へることは睡眠同様に健康を測るわかりやすいバロメータですから、いつまでも美味しく食べるため



医療物資が不足する中で、最前線で医療を支えるすべての方々に敬意と感謝を示し、「都民の皆様にもご理解いただきたい」と語る



都民ファーストの会として都民の皆様への安心と安全を確保するために、小池百合子都知事に新型コロナウイルス感染症対策を要望した

「大切になされている言葉。」

「辻野氏」明日があると思える。いまを生きて。「です。そのうち」とか「後回し」にかかるとは、後回しにできることを一所懸命にやろうと思っています。自分の人生には限りがあり、時間も有限です。今できることを一所懸命やること、私の座右の銘です。

私は麻酔科で勤務していた三十四歳の頃、僧帽弁閉鎖不全症と診断されました。それがわかった時、目の前が真っ暗になりました。医師からは「完治には手術しかない」と告げられました。また、当時、麻酔科医だったこともあり、心臓麻酔はハイリスクであると認識しており、循環器の医師から「医療の技術は日進月歩だ。今は様子を見て、手術は先延ばした方がいい」と告げられたこともあり、経過観察をしてきました。そして、一昨年四月に手術することになりました。この時の経験から、常に一瞬の一瞬を一所懸命生きようと思えました。そして今は「完全燃焼」で生きようとして、強く思うようになりました。これからも都民の皆様のために心血を注いで取り組んで参ります。

「本日貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。」